

洛和会ヘルスケアシステム

体への負担が少ない医療を心がけ、慢性完全閉塞のような難症例にも対応

洛和会丸太町病院

高い技術や最新機器を駆使した心疾患医療で 全身の血管の包括的な診断・治療を

全身の血管疾患に対する 包括的な医療

血管内に通したカテーテルで血管の狭窄部位を広げる心臓カテーテル治療の普及により、近年心疾患医療は大きく発展してきた。それと共に、治療を担う循環器内科の役割もまた拡大している。「現在では、ただ心臓を治療するだけでは長期予後が改善できないと考えられています。原因となる動脈硬化は全身に及ぶため、そのすべてを治療できなければならぬのです」と語

るのは、洛和会丸太町病院で洛和会京都血管内治療センターのセンター所長を務める上田欽造医師。同センターでは治療だけではなく、予防、生活指導なども含めた包括的な診療を全身の血管を対象として実践している。あらゆる情報を丁寧にする。あらゆる情報を丁寧にする。あらゆる情報を丁寧にする。説明し、病状や年齢、今後の生活などを踏まえて、最も適した治療法を提案するという。

内外の研修医の受け入れ、海外での技術指導など、医師の育成にも積極的に携わってきた。その経験が、血管が完全に閉塞しているCTO(慢性完全閉塞)へのカテーテル治療、足の血管が閉塞するPAD(末梢動脈疾患)の治療など、多様な症例への対応を可能にしている。術後合併症も1%以下に抑え、急性心筋梗塞の心肺停止例に対しても低体温療法を駆使して高い成功率につながってきた。

上田医師は、30年以上にわたって心疾患治療に携わってきた医師であり、カテーテルライブの開催や国



洛和会京都血管内治療センター
センター所長

上田 欽造

うへだ・きんぞう ●冠動脈、内頸動脈ステント留置術、末梢動脈インターベンション、急性期医療が専門。日本心臓血管インターベンション治療学会(CVIT)理事、CVIT近畿支部支部長、臨床修練指導医など



2014年1月1日に新築移転した洛和会丸太町病院

患者への負担の 軽減を重視した治療

同院では、高度な治療においても患者の肉体系、精神面への負担が少ないことを目指している。特定の箇所放射線照射量を知ることが可能な最新線量計の導入も一例であり、それにより照射量が一箇所に集中しないよう心がける。診断に用いる造影剤を原因とする造影剤腎症にも注意を払い、造影剤使用量の低減はもちろんのこと、血液透析使用法の新しい開発などで腎機能の低下した患者でも安全に治療できるようにしているという。

診療体制の面でも、患者が不安を持ち越さないよう、初診時においても半日で検査・診断結果を伝える他、入院患者7人に対して看護師1人以上を配置する「7対1看護」で手厚いケアを提供する。2014年1月に新築移転した同院は、カ



カテーテル中は最新の線量計で放射線の照射量を確認



青空色のグラデーションで彩られたカテーテル室

【診療科目】 内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、心臓内科、内分泌糖尿病内科、外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、形成外科、リハビリテーション科、救急科、麻酔科(大畑恵美子)、放射線科

【診療時間】 8:30~12:00/13:30~16:00

【休診日】 日・祝

【許可入院患者数】 150人(ICU10人含む)

〒604-8401 京都市中京区七本松通丸太町上ル
TEL.075-801-0351(代)

<http://www.rakuwa.or.jp/maruta/>

テール室や検査室まで含めて温かい色合いのデザインとなっており、患者はリラックスして治療を受けられるだろう。

手厚いケアを心がけるのも「私自身が患者さまやそのご家族の立場になった時に、何をしてもらいたいかを提供できることを大切にしています」と上田医師が語るような患者本位の姿勢をチーム全員が共有しているからだといえる。「地域住民に親しまれ、必要とされる病院」として、同院は地域貢献に力を尽くす。